

# 事業報告書

2018年度（平成30年度）

2018年（平成30年）4月 1日から  
2019年（平成31年）3月31日まで

滋賀県近江八幡市市井町177番地

学校法人 ヴォーリス学園

## 2018年度事業報告書

当年度事業計画書に、「学園全体の児童生徒数（学童保育を除く）は、当面2,400～2,700の間で増減しますが、数年後に2,700程度に落ち着かせたい」と記しました。

5月1日調査で高等学校1,135名、中学校434名、小学校86名、エデュケア事業（保育園、認定こども園）920名、合計2,575名でしたが、年度末には高等学校1,098名、中学校431名、小学校84名、エデュケア事業928名、合計2,541名でした。すなわち、年度途中の減少が高等学校37名、中学校3名、小学校2名（逆にエデュケア事業では8名の増）であったわけです。この減少の理由をリアルにとらえて教育改革につなげる必要があります。

一方、当年度の活発な募集活動（保育園新設含む。小学校除く）により、2019年度園児・児童・生徒数はおよそ2,700名となり、長期計画は順調に進んでおります。

しかし加速度的に進行している少子高齢化、人口減少（都市部集中・地方衰退、滋賀県では南部集中・北部過疎化）の向かい風はまことに厳しいものです。高齢化現象は「社会情勢」というような他人事ではなく、われわれ自身の家庭にも吹き寄せています。学園関係者の「介護、看護、本人の病気」等の事例が急増しています。

学園の基本理念を次のように整理しました。「こころの自由を何より大切にし、すべての信実な宗教に敬意を払う（宗教共存主義）」「学園の事業は、地の塩・世の光として平和を実現する人間教育。その根底にキリスト教主義を据える」「学園は法に定められた学校。学校教育の中心は学習。教育の基本基礎となるあいさつ、掃除、自分で考えることをしっかりしつける。多様な宗教のマナーを知っておくことが国際人として必要」（学園報『一粒の麦』第196号）。

上記理念を学園関係者が共有するために、「ヴォーリズ学園の願い」をまとめ、ホームページに掲載しました。

長期計画「フロンティアプロジェクト」は「第一次」をいったん総括し（別紙報告書）、「第二次」に移行しました。（2019年度事業計画書）

高等学校の学則定員増の申請をし、認可されました。ふるたか虹のはし保育園が竣工しました。2018年度で理事長、高校長、中学校長（エデュケアセンターでも一部園長）が交代し、新体制で2019年度を迎えました。

理事長 藤澤俊樹

## I. 学校法人の概要

本学校法人はイエス・キリストを模範とし、教育基本法および学校教育法に従い、学校教育を行い、自己統制力のある自由人、独立自主の創造力に富む人、知性豊かな国際人を育成することを目的としております。

この目的を達成するために設置された本学校法人ヴォーリズ学園の2018年度における概要は、以下のとおりであります。

### 1. 設置する学校等

近江兄弟社高等学校 全日制課程 普通科・国際コミュニケーション科  
近江兄弟社中学校  
近江兄弟社小学校  
近江兄弟社ひかり園  
金田東保育園（本園・分園）  
安土保育園（本園・分園）  
もりの風こども園  
そらの鳥こども園  
安土こどもの家  
守山児童クラブ室（物部・小津・玉津）

### 2. 建学の精神

「イエス・キリストを模範とする人間教育」

### 3. 沿革

- 1905年 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ、滋賀県立商業学校英語教師となる。商業学校生徒を対象にバイブルクラス、YMCAを組織。吉田悦蔵ら同居。
- 1907年 八幡YMCA会館（現アンドリュース記念館）建設。悦蔵と共同生活。悦蔵、商業学校卒業。流暢な英語で答辞を述べた。ヴォーリズ、同校退職。八幡に留まる。
- 1909年 大津・米原に鉄道YMCA設立。
- 1917年 近江ミッション所有地を開放してプレイグラウンドとする。
- 1919年 メレル・ヴォーリズ、一柳満喜子と結婚。
- 1920年 プレイグラウンドに清友園と名付け、ヴォーリズ満喜子が園長となる。
- 1922年 清友園幼稚園開設。園長・ヴォーリズ満喜子。戦後、近江兄弟社幼稚園と改称。
- 1923年 米原シオン幼稚園開設。園長・吉田清野。42年閉鎖。  
吉田悦蔵著『近江の兄弟等』出版。跋文、賀川豊彦。
- 1930年 ヴォーリズ、Colorado College L.L.D（名誉法学博士号）授与さる。
- 1931年 ハイド一家の寄付により幼稚園舎（現ハイド記念館）、体育館（現教育会館）建設。
- 1933年 吉田悦蔵ら近江勤労女学校設立。35年、近江兄弟社女学校に改称。戦後、新制中・高等学校（近江兄弟社中・高等学校）になる。近江向上学園設立（女子従業員教育、学園長・佐藤安太郎、西村関一、吉田政次郎）。戦中、女子青年学校、戦後、近江兄弟社高等学校定時制部、78年廃部
- 1935年 幼稚園の分園事業として大林公衆浴場二階において、大林の幼児のために保健衛生を主とした生活訓練を開始、これを「大林子供の家」と称した。翌年、慈恩寺町に活動場所を移し、39年から本園の幼稚園に合流。このころまでに、堅田・今津・水口幼稚園、八日市託児所、近江家政塾、八幡英語学校、江西義塾、農村青年学校、清友園教育研究所等多様な教育事業展開。
- 1940年 近江兄弟社図書館開設（吉田悦蔵館長）。75年近江八幡市に移管。
- 1941年 ヴォーリズ帰化、一柳米来留と名のる。太平洋戦争始まる。
- 1942年 女学校長・吉田悦蔵召天。以後校長、高橋虔、檜山嘉蔵。
- 1942年 時局により向上学園閉鎖、近江兄弟社女子青年学校に（校長・村田幸一郎）。戦時中、一柳一家は軽井沢にて暮らす。メレルは宣教師らと教会・学校建築計画に余念なく、東京大学にも出講。満喜子は軽井沢幼稚園・啓明学園などの運営を委託される。戦後帰幡。
- 1947年～近江兄弟社小・中・高等学校・同定時制部を順次整備（一柳満喜子学園長）。
- 1950年 中高校舎建設、67年焼失。68年新校舎建設。2007年改築（現学園本館）。
- 1951年 学校法人近江兄弟社学園設立。初代理事長・一柳米来留、学園長・一柳満喜子。
- 1954年 一柳米来留理事長、藍綬褒章、58年近江八幡名誉市民、61年黄綬褒章受章。

- 1963年 一柳満喜子学園長、教育功労者として藍綬褒章受章。
- 1963年 「小中学校を廃止して高等学校の充実を計る」と発表したが、反対運動で中止。希望館建設、2010年改築（現希望館）。
- 1964年 財団法人近江兄弟社と経営分離。校名変更検討・保留。一柳米来留理事長召天。
- 1969年 一柳満喜子理事長・学園長召天。以後、**理事長**、尾崎政明、西川仲二、西村関一、山本肇、草間修二、西村与左衛門、山田眞、仁村昭司、道城献一、岩原佑、池田健夫。**学園長**、浦谷道三、尾崎政明、草間修二、大橋寛政、仁村昭司、道城献一、奥村直彦、大門義和、中島修、佐野安仁、道城献一、池田健夫。
- 1972年 学園創立50周年を記念して体育館建設（ヴォーリス記念体育館）。高校海外研修旅行（韓国）開始、90年より分散型に変更。
- 1974年 株式会社近江兄弟社会社整理、75年より財団補助金廃止、私学助成制度開始。
- 1978年 高等学校定時制部廃止。
- 1979年 高校新校舎建設（現西館）、4学級制に対応。
- 1980年 中学校2学級制に。84年から3学級制に。
- 1983年 中高一貫コース開始、翌年、特進コース開設。93年コース制解消。
- 1988年 三輪英樹五輪出場。以後、伊藤みき、乾友紀子出場。
- 1991年 学園創立70周年を記念して新図書棟建設（現捜信館）。
- 1992年 高校女子バレーボール部「春高バレー」に初出場。93年野球部が甲子園初出場。以後、全国大会出場クラブ多数。
- 1994年 北之庄校地取得、95年グラウンド造成（ヴォーリス記念グラウンド）。
- 1997年 文化体育交流センター建設。
- 1998年 小学校2学級制にするも2002年中断。シャロン館建設（現エクステンションセンター）
- 2000年 ハイド記念館・教育会館が有形文化財に登録される。高校新校舎建設（現東館）。6学級制に対応。
- 2001年 高校に単位制課程を設置（希望館）。05年北館建設、単位制2学級化に対応。
- 2002年 近江兄弟社総合サービス有限会社設立（スクールバス、営繕、警備）。「21世紀グランドデザイン」策定。
- 2003年 幼稚園新園舎建設。こどもセンター設立。以後、保育園（2）、同分園（2）、認定こども園（2）、学童保育所（4）を順次開設。
- 2004年 第2次グランドデザイン。06年、第3次グランドデザイン。
- 2007年 学園本館建設、5階にヴォーリス平和礼拝堂設置。中学校4学級制に。
- 2009年 「ヴォーリス展 in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。
- 2010年 第4次グランドデザイン。新希望館建設、ICC発足、翌年、国際コミュニケーション科認可。武道場建設。
- 2011年 浅小井校地取得、中高体育施設・小学校舎整備。
- 2014年 小学校を浅小井校地に移転。ヴォーリス没後50年記念行事「ヴォーリスメモリアル in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。「ヴォーリス建築を巡る韓国旅行」主催。
- 2015年 法人名を「学校法人ヴォーリス学園」に変更（理事長・池田健夫、学園長・道城献一）。第5次グランドデザイン。
- 2016年 弓道場移転・完成記念式（3月28日）  
メインアリーナ起工式（4月2日）  
そらの鳥こども園起工式（8月29日）  
第10回「いのちと平和の集い」開催（10月28日）  
2018年度近江兄弟社小学校児童募集停止発表（12月）  
そらの鳥こども園竣工式（3月26日）
- 2017年 そらの鳥こども園開園（4月1日）  
メインアリーナ竣工式（4月6日）  
サブアリーナ改修  
ヴォーリス記念アリーナグランドオープン祝賀会（9月18日）
- 2018年 「近江兄弟社こどもセンター」を「ヴォーリス・エデュケアセンター」に変更  
ヴォーリスコーチングアカデミー開設  
ふるたか虹のはし保育園起工式（8月27日）  
ヴォーリスみらい構想準備会立ち上げ、委員会開始（2019年1月23日）  
ふるたか虹のはし保育園竣工式（3月30日）入園式（4月6日）  
高等学校国際コミュニケーション科定員増認可

4. 設置する学校の定員および生徒数の状況（2018年度私立学校調査等より）

校 園	定員数	生徒・児童・園児数
高等学校	1,085名	1,135名
中学校	456名	434名
小学校	(432名)	86名
こども園	565名	579名
保育園	270名	341名
学 童	388名	346名
合 計	3,196名	2,921名

5. 役員および教職員の概要等

①役員一覧（2018年5月1日現在）

理事長 池田健夫  
 常任理事 藤澤俊樹 小野春男 小森康三 安川千穂 奥 達夫  
 理 事 周防正史 山村 徹 上野 昌志 蔭山孝夫 筈井昌彦 尾賀康裕  
 管井恵子  
 監 事 佐藤弘明 小西 勉  
 評議員 45名

②教職員数（2018年度私立学校調査等より）

法人本部	理事長、学園長、副学園長、専務理事・事務長、事務次長、専任職員7、兼任職員1					
校 園	校 長	副 校 長	専任教員	兼任教員	専任職員	兼任職員
高等学校	1	3	74	30	11	19
中学校	1	1	27	15	2	11
小学校	1	1	7	7	2	7
こども園	園長3	副園長3	93	0	10	39
保育園	園長2	2	0	0	64	33
学 童					8	36

II. 各校園事業報告

1. 高等学校

2019年度県内高校入試では、県北部の人口減少、県南部を中心とした県外私学への流出、更には通信制高校の進出等の影響もあり、大変厳しい状況になりました。私立高校入試では、ここ数年続いていた私学への進学者増の流れに歯止めがかかり、県内私学10校中6校が定員割れとなりました。特に県南部の私学において大幅な定員割れが生じたことは大きな衝撃です。そんな中、本校では定員355名に対し374名の入学者を得られたことは評価したいと思います。専願率の高い学校が定員充足を確実に果たしており、中学生から「専願で選ばれる魅力ある私立高校」であることが定員確保の必須条件となります。これに向けた取り組みとして本校では「リベラルアーツ教育」を推進しました。

第一に ICC・ASC・GLC・HNC の4クラス制度の充実を図るため、各クラスの特徴ある取り

組みを新クラス制度委員会を中心に推し進めました。ASCでは独自科目ASL(アーツサイエンスリーダーシップ)で生徒のサーバントリーダーシップ養成の取り組みとして表現力やプレゼンテーション能力の育成を図り、多くのレポートや発表の機会を設けました。海外研修旅行では事前にテーマを設定し、英語科とも連携して、交流校の生徒を相手に英語でポスターセッションを行いました。GLCでは「Gチャレンジ」や「未来塾」の取り組みを発展させ、自分の将来について考え、主体的に行動する力を伸張させました。この取り組みを通して、生徒のクラスに対する帰属意識が大変高まりました。

授業改革では引き続きアクティブラーニングが多くの授業で展開され、主体的に学ぶ姿勢や仲間と協働して探求する力が養われました。外部機関を利用した授業アンケートにおいても授業に対する満足感の良い結果であるとの評価を得ました。ただ家庭での学習量や更なる学習意欲の向上に繋がる授業であったかどうかについては課題が残りました。またエクステンションプログラムとして実施した特別講座への参加者も増加しました。特に春休み前に実施した講座には予定を大幅に超える生徒が参加し、急遽、講座数を2倍にして対応しました。「本物との出会いプロジェクト」や「インターアクトクラブ」の活動など、コアカリキュラム以外の活動の幅も広がりました。生徒会活動では学園祭の充実に加え、生徒部と連携した委員会活動の活性化も図られました。

進路では大学合格件数274と前年324件と比して減少しました。これは受験件数702件が前年906件と比して減少したことが大きな要因ですが、定員充足厳格化などの不透明な大学入試制度の中、生徒がこれまで以上に指定校推薦やAO入試といった専願受験に動いたことが大きな要因となっています。一方でここ数年は殆どなかった就職が大手企業・公務員など8件となり、人手不足の社会情勢が反映された結果となりました。

クラブ活動では多くのクラブが近畿大会や全国大会に出場しました。特に女子バスケット部が念願のウィンターカップ初出場を果たし、女子バレー部も春高出場を果たしました。これらの県大会決勝では多くの生徒が会場に駆けつけ、ともに声援できたことは生徒間の絆を深めると共に、近江兄弟社高等学校への誇りや帰属意識を高める絶好の機会となりました。一方で、いくつかのクラブにおいて退部者が著しく増加し、そのことによって学校に対する不信感を招きました。その多くは指導者と生徒・保護者とのコミュニケーション不足が原因となっています。また2024年の滋賀国体拠点校として女子バレーボール・男子ハンドボール・卓球男女・弓道男女・新体操が決定しました。2019年度入試におけるASCの専願奨学金対象者が全て推薦入試による入学者であったことに象徴されるように、成績上位の中学生が本校に「学習とクラブの両立」を期待しており、この期待に応えるクラブ指導方針や学校生活の在り方を早急に検討します。

また2018年度は退学者の増加が際立ちました。退学者数37名の多くは不登校による進路変更ですが、身近に通信制高校という選択肢が得られるようになったこともこの動きを加速させました。「兄弟社を卒業したい」という強い願いを持ちながらも高校卒業資格取得のためには進路変更をせざるを得ない事実を重く受け止め、教育相談体制や本校の教育システムの見直しも検討課題とします。

2019年度は、クラス制度先頭学年の3年生の取り組みを開拓しつつ、1・2年生は先頭学年の取り組みを発展させる多忙かつ重要な年度になりますが、数年先を見据えたながら研修・研究にも取り組みます。本校に学ぶ生徒や教職員が生き生きと活躍、成長するために必要な事柄を分析し、今後の発展に繋がる年度とします。

## 2. 中学校

2018年度は「未来志向の教育改革」を柱に、教育課程の見直しと改革、生徒の自主的な学習の推進、教職員の授業力・指導力アップ、ICT教育の前進を図りました。また、シラバスの内容の充実、授業時間数増、特別科目の設置、時程の見直し等「中学校教育改革」の検討を始めました。Active Learningやグループ学習などに積極的に取り組み、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」を意識して授業に取り組みました。ICT活用については、機器や環境の整備も少しずつではありますが進めることができ、1クラス分、40台のタブレットを準備し、授業での活用をさらに推進しました。また、英語教育では、4技能を重視した研修と取り組みをし、前年度導入のGTECの活用も進みました。英語暗唱大会では、3年生の取り組みとして、それぞれのテーマを設けて英語でプレゼンテーションを行う取り組みも始めました。

「フロンティアプロジェクトI」の検討・具体化の推進を図りました。中高の水路を広げる取り組みとしては、高校の取り組みをできるだけ詳しく中学3年生に伝えるような機会を設けたり、教職員間でも理解を深めるための取り組みをさらに進めました。また、内部進学生徒を対象に入学前プログラムの充実を高等学校と協議して行いました。具体的には高等学校の授業を体験する「リベラルアーツ Jr 講座」を行い、その学習の成果を発表する取り組

みを行いました。

年2回の学習・生活アンケートや保護者アンケートの結果を踏まえて、授業改善や学習指導の向上を図ることができ、生徒状況の把握、事後の指導にも活用できました。

生徒募集については、Webによるイベント登録及び入試情報提供を行いました。書類での出願を廃止し、Webによる出願を実施しましたが、大きな混乱もなく、事務処理もスムーズに行うことができました。オープンキャンパスや模擬試験の参加者数が前年度より回復はしたものの厳しい状況でした。当年度も専願を重視する入試を行い、自己推薦S型定員70名、A型定員を50名として募集活動を進めました。結果としてA型の受験者数が37名、S型の受験者数が71名となり、前年度よりS型の受験生が少し伸びました。近江兄弟社小学校からの内部進学者は前年度8名から19名と大幅に伸びました。兄小生に中学校の施設を使って中学校の教職員が小学校の授業を行ったり、小学校の行事に中学生が参加したりと、小中学生の交流を多くしたことも大きな要因である考えられます。当年度の募集活動の結果、第1学年の入学生は151名でした。今後の募集活動のあり方の検討や教育改革をさらに進めていく必要性を感じています。

### 3. 小学校

2018年度の児童数は、2～6年生合わせて86名となりました。

学童期の発達段階における基礎的・基本的な知識・技能を習得し、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力が身に付くように日々の学習活動を行いました。アクティブラーニングの視点からの学習活動を通して、主体的・協働的に学ぶ姿勢を育みました。

電子黒板やタブレットなどを活用し、ICT教育の推進に努めました。

近江兄弟社中学校への進学および進学後の充実した学校生活を見据え、基礎基本となる学力・学習態度を身に付けることをめざして取り組むとともに、日常の一斉授業だけでは基礎学力の定着が困難な児童に対して、補習授業を行いました。

月1回土曜日を登校日として、授業時間の確保に努めました。

児童各自が自分の目標を定め、目標達成に向けて努力を積み重ねることができる一つの方策として、「漢字検定」「算数検定」を各2回、「英検 Jr.検定」を1回実施しました。

聖書の教えを軸に自己肯定感を育み、命を大切にし、自ら生きる世界を愛する心を育てることをめざして宗教教育に取り組みました。また、学校行事に限らずランチや掃除や遊びなど日常の生活においても、異学年・異年齢集団での活動を取り入れ、コミュニケーション能力を育み、隣人愛の精神を培えるようにしました。

各行事を工夫して取り組みました。

小規模な運動会ではありましたが、お手紙と花の種を付けて飛ばした「エコ風船」、三重・愛知からお手紙をいただき大いに励まされました。また、PTA種目は役員さんたちの企画・運営で大いに盛り上げていただきました。

びわ湖一周サイクリングは、天候により一日だけの実施になりましたが、保護者の皆さんやボランティアの皆さんにご協力を得て、無事全員完走を遂げることができました。

短期留学は、4・5年生希望者11名の参加で、ベツレヘムカレッジ(ニュージーランド)のホームステイプログラムにより実施しました。現地の学校での授業プログラムに参加したり、ホームステイにより異国の生活を体験することができました。

中学校の「花の日礼拝」には、卒業生が「今頑張っていること、将来の目標」のメッセージをお花とともに届けてくれました。また、小学校「朗読会」には、中学生3名が英語朗読を披露してくれました。

2019年度は全校児童数3～6年生56名となりますが、建学の精神のもと、子どもたち一人ひとりを大切にし、最後の最後まで責任を持って取り組んでいく決意です。

### 4. ヴォーリス・エデュケアセンター (vories EduCare Center)

#### ◆近江八幡事業部

#### ○近江兄弟社ひかり園

2018年4月～6月、近江兄弟社ひかり園整備事業(第Ⅱ期)として、乳児棟園舎(旧きよし荘)解体および園庭整備ならびに第二園庭(ぶんえもん広場)整備を実施しました。これらの整備により、屋外における運動遊び等の充実が図れました。今後、第二園庭を含めた多賀校地周辺のさらなる整備、活用方法について検討に入ります。

#### ○金田東保育園

一昨年より小学校校舎内を視察し、浅小井校地内における金田東こども園開園について協議しておりましたが、当面の間、協議を保留することにいたしました。理由は、オリンピックおよび万国博覧会等に向けた整備事業に伴う、建築業界が抱える課題が生じたこと

によります。西庄にある現在の施設を整備し、幼保連携型認定こども園化する方向で検討を始めました。

○ヴォーリズ・エデュケアセンター本部

働き方改革を踏まえ、業務の効率化と業務量に即した人員配置を行いました。法改正に則した各種規程の見直しのための準備を進めるとともに、10施設となる各園所が、ひとつの事柄を共通認識が出来るような仕組み作りに取り組みました。

◆守山事業部

○もりの風こども園・新規事業（ふるたか虹のはし保育園）開園準備室

ふるたか虹のはし保育園開園に向け、総力を挙げ園舎建設、保育士確保、保育内容確立等を計画し歩みました。もりの風こども園においては、新規園に人材を輩出しつつも既存園の保育内容を充実していけるよう研修を重ねる等、資質向上に努めました。

○物部児童クラブ室 小津児童クラブ室 玉津児童クラブ室

2018年度より2期目（向こう5年間の運営）をスタートさせました。職員の連携および保育内容充実を図るため研修やミーティングの場を設けよりよい放課後児童クラブ室の運営に務めました。

◆安土・能登川事業部

○安土保育園

2018年度より分園を乳児（0，1歳児）専用棟、本園を幼児（2～5歳児）専用棟として運営を開始し、園児の発達により適した環境で保育を行いました。また、職員の労働環境の課題にも視点をあて、改善を図りました。こども園化、園舎改修につきましては、引き続き近江八幡市と協議しながら検討をすすめてまいります。

○そらの鳥こども園

1号認定の充足を目指す中、2018年度は定員どおりの新3歳児が入園しました。開園2年目で総園児数も定員を超えることができました。

○安土こどもの家

保育環境の向上のために定員を減じて適正規模とする予定でしたが、入所希望者の受け入れを優先させ、1年間の先送りとしました。

III. 財務報告（2018年度財務状況概要）

（1）資金収支計算書

学校法人の当該会計年度の諸活動に対する、すべての収入・支出の内容を明らかにするものです。

以下に、主な科目についての経年比較資料を掲示いたします。

①資金収入

（単位千円）

	2014	2015	2016	2017	2018
納付金収入	1,176,337	1,225,643	1,165,875	1,238,645	1,206,703
手数料収入	34,649	32,151	34,345	32,247	32,527
寄付金収入	25,785	50,337	129,781	21,133	48,803
補助金収入	1,108,168	1,159,561	1,464,665	1,397,403	1,756,736
事業収入	161,588	99,346	108,304	112,018	109,236
雑収入	57,420	45,241	70,969	81,736	76,551
借入金等収入	39,000	147,300	883,000	17,000	582,400
前年度繰越支払資金	332,938	330,137	365,073	607,762	631,552
<b>収入の部合計</b>	<b>2,939,070</b>	<b>3,076,148</b>	<b>4,667,683</b>	<b>3,869,638</b>	<b>4,192,147</b>

②資金支出

（単位千円）

	2014	2015	2016	2017	2018
人件費支出	1,611,207	1,611,279	1,702,615	1,869,574	1,904,102
経費支出	616,220	614,434	605,785	692,645	697,968
借入金利息支出	15,356	14,154	13,404	14,189	13,566
借入金返済支出	94,991	87,948	148,918	300,763	83,316
施設関係支出	42,055	165,386	1,311,034	228,529	577,371
設備関係支出	60,038	25,366	63,098	27,621	99,309
資産運用支出	150,335	150,761	150,090	100,000	50,000
翌年度繰越支払資金	330,137	365,073	607,762	631,552	850,215
<b>支出の部合計</b>	<b>2,939,070</b>	<b>3,076,148</b>	<b>4,667,683</b>	<b>3,869,623</b>	<b>4,192,147</b>



(2) 事業活動収支計算書(2016年度から変更)

区分経理の考え方が取り入れられ、学校法人の活動内容ごとに収支状況を明らかにするものです。

(単位千円)

	2016	2017	2018
教育活動収入	2,604,231	2,844,663	2,872,041
教育活動支出	2,544,065	2,821,107	2,861,533
教育活動収支差額	60,166	23,555	10,507
教育活動外収入	1,141	17	40
教育活動外支出	13,404	14,189	13,566
教育活動外収支差額	△ 12,263	△ 14,172	△ 13,525
経常収支差額	47,903	9,382	△ 3,017
特別収支差額	359,880	39,116	382,958
基本金組入前当年度収支差額	407,784	48,498	379,940
基本金組入額	△ 504,299	△ 619,167	△ 191,757
当年度収支差額	△ 96,515	△ 568,134	188,183

(3) 貸借対照表

年度末における資産、負債、純資産(基本金、繰越収支差額)の状態すなわち財政状態を表示するものです。

	2016	2017	2018
固定資産	5,709,491	5,657,799	6,149,004
流動資産	1,066,886	898,243	1,372,868
資産の部合計	6,776,377	6,556,043	7,521,872
固定負債	1,323,744	1,259,020	1,426,546
流動負債	553,734	349,624	767,987
負債の部合計	1,877,478	1,608,645	2,194,534
基本金の部合計	7,236,880	7,856,047	8,047,805
繰越収支差額	△ 2,337,981	△ 2,908,650	△ 2,720,466
純資産の部合計	4,898,898	4,947,397	5,327,338
負債及び純資産の部合計	6,776,377	6,556,043	7,521,872